

沖縄気象台

主な採用区分

物理、化学、デジタル・電気・電子、土木

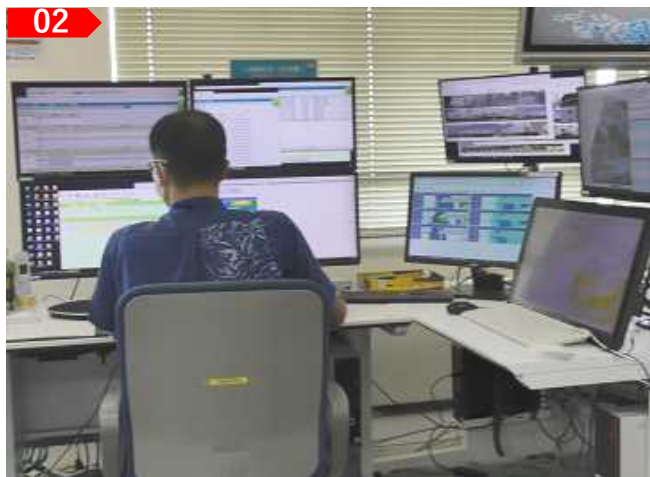
物理、化学、デジタル・電気・電子、土木区分の主な業務

01



01 気象庁の業務は、自然現象を常時監視すると共に、気象、地震、津波、火山活動に関する情報を発表している。それらの業務は幅広く、また異なる業務であってもそれぞれ少なからず関連があるため、採用区分にこだわらず様々な業務に携わることができる。

02



02 沖縄気象台では気象状況を24時間体制で監視し、観測データや数値予報をもとに気象災害の防止・軽減、二次災害防止を目的とした防災気象情報や、日々の生活を支える天気予報などを発表している。

03



03 多くの職員で情報を共有しながら、毎日の予報業務を行っている。数値予報による予測精度は年々進歩しているが、最後に決断を下すのは長年経験を積んだ予報官である。

04 たえず変化している大気の状態を把握するために、沖縄気象台では気圧・気温・湿度・降水量・風向・風速・日照時間等を観測している。このうち、地面からの熱や人工物の影響を避けるために芝生が植えられた「露場」と呼ぶ場所に、気温・湿度・降水量の観測機器を設置している。これらの観測システムを維持するため、観測器材の管理や計画的な機器のメンテナンス業務も担っている。

04



沖縄気象台の露場



05 災害発生時において、今後の防災気象情報の改善に資するよう、現象の実態解明のため職員【気象庁 機動調査班(JMA-MOT)】を派遣し、現地調査を行っている。写真は突風調査の様子。突風により木が折れている。地域住民からの聞き込みなども行い、各種情報を収集・共有・整理し、調査結果について、迅速に地元自治体に報告すると共に、報道にも公表している。



06 沖縄県内各地には、観測データを収集するため様々な観測地がある。写真は地震観測局である。多様な地震動(揺れの大小、周期の長短など)を観測するために、各種の地震計を設置している。

その他にも潮位観測施設などがあり、潮位をリアルタイムで観測し、潮位や津波の監視に利用している。

先輩職員に聞く仕事の魅力！

那覇航空測候所
現業班技術主任

あかみね ひろむ
赤嶺 拡

2016年 那覇航空測候所 観測課 採用
2018年 石垣島地方气象台
2021年 那覇航空測候所
2023年 那覇航空測候所 現業班技術主任 現職



現在は那覇航空測候所という職場で空港に特化した気象情報を発信する業務をしています。台風はもちろん、より細かい現象を対象に予報する事は厳しい一面がある一方でやりがいを感じながら日々奮闘しています。大学の専攻は物理でしたが、気象庁には物理以外にも化学や電子・情報・土木の分野から入庁される方もおり、専門的な知識の習得は充実した研修制度と周りからの指導でおのずと身に付きます。

プライベートでは4児の父です。これまで2度の育児休業も取得し、職場と家庭をなんとか両立しながら、充実した毎日を過ごしています。

みなさんと「気象庁」で一緒に働けることを楽しみにしております。

■お問い合わせ先

沖縄气象台総務課人事係

〒900-8517 那覇市樋川1-15-15 那覇第一地方合同庁舎 西棟5階

TEL：098-833-4281

<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/>

